熊退教協ニュース

発行所
熊本市中央区九品寺１丁目11-4
熊本県退職教職員等協議会
㈹372－1500
編集者発行人
松田道雄
印刷
コロニー印刷
☎353－1291㈹

No. 111

仲間と一緒に

熊本県退職教職員等連絡協議会会長　松田　道雄

会員の皆様お元気でお過ごしでしょうか。二〇二四年度の始めにあたり、熊退教協を代表してご挨拶申し上げます。

元日に起こった能登半島地震。毎日報道される災害の甚大さに心を痛めています。同じ災害を経験した熊本として、被災地の一日も早い復旧・復興を願わずにはいられません。

熊退教協は昨年十二月に地区事務局長会議を開催し、今後の活動の重点について論議しました。まずは、会員相互のつながりを大事にするため、それぞれの「地区退教便り」を活用した取り組みが報告されました。県退教協も、地区退教の交流を応援する視点を大事にして「熊退教協ニュース」の発行に取り組みたいと思います。

２月25日「友好の会天草大会」にて

それから「学校の大ピンチ」を救う署名活動や「日教組働き方改革オンライン熊本集会」への参加ありがとうございました。当日、全国から「過労死ラインを遙かに超える長時間勤務の問題、教員未配置、精神疾患による病気休職増、教員志望者減など」たくさんの実態が報告されました。

現場で私たちの後輩が奮闘しています。学校の再生なくして日本の未来はありません。「持続可能な学校」にするため、教員の命と健康を守る事が大事です。「定額働かせ放題」の「給特法」の廃止などの抜本的な見直しが必要です。ぜひ現退一致で課題解決に取り組みましょう。未来の退教協会員のためにも！

の廃止・抜本的見直しなどを含めた七つの提言を発表しました。熊教組は、この提言に沿った働き方改革と組織強化・拡大を最重要課題として運動を展開していきます。熊退教協のみなさんにもお世話になることが多々あると思います。ご支援よろしくお願いします。

持続可能な学校を

熊本県教職員組合委員長　村枝　哲弥

昨年四月に行われた統一自治体選挙では、現退一致でとりくむことができ、熊本市一区で岩田とも子県議が見事三期目の当選を果たすことができました。感謝申し上げます。

今学校の現状は、新聞等で報道されているように、児童生徒の不登校の数は増え続け二〇二二年度に全国の小・中学校で二十九万九千人、いじめの件数も減ることはなく、被害が深刻ないじめの認知件数は過去最高になっています。また、教員志望者は減少し、教員採用試験の倍率は年々下がり、教員不足が大きな問題になっています。勤務時間管理はすすんでいるものの、長時間労働は改善されていません。GIGAスクールなどの新たな業務が増え、業務削減もすすんでいません。

日教組は昨年七月、持続可能な学校にするため業務の改善、教職員の定数改善、給特法

１月20日「日教組働き方改革オンライン熊本集会」にて

五十年の歴史を実感
五十周年記念号に寄せて

宇城　河崎　酵二

まず、五十年前に熊退教協結成に関わられた先輩方に感謝の意を捧げたいと思います。その中で、早田豊一顧問が「退職しても信念を貫き、スクラムを組もう」と語っておられるのには、強い思いがこめられていて感動を覚えました。

思えば、現職時、組合員であった教職員の姿は素晴らしいものでした。勉強が苦手な子に手を差し伸べ、いじめや不登校で悩む子に寄り添い、人権が侵害されるときはその子と共に奮闘し、長崎・広島の修学旅行では平和を教えるなど、多岐にわたる教育実践が行われてきました。職場では「おかしなことはおかしいと言うこと」を実行し、静かに誠実を貫いてきたのでした。そんな組合員仲間と共に、楽しく充実した教員生活が送れました。

そして今、退職後も退教協の一員として生きている意味を、この特集号を読んで改めて自覚しました。平和・人権・教育・生活を守り、五十年の歴史を背負いながら、誇りを持って社会に参加できていることを感じました。

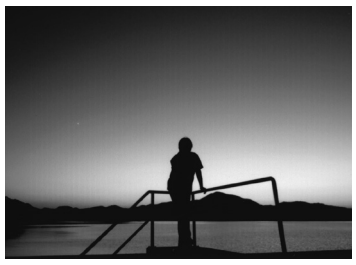
私は退教協の総会や忘年会に参加するだけの会員でしたが、五十周年記念号を読んで退教協の一員であることで今後も充実した人生が送れそうな気がしています。

なかまを迎えて
退職後の新しい世界

天草　山下千栄子

一九八八年から三十五年間勤め、定年まで待てずに早期退職をしました。二〇二〇年に政府から給付された十万円でカメラを買っていたので、退職してからはあちこちとび回って撮影三昧の日々を送っています。

朝は公園に行き、花や野鳥を撮ります。最初は運動のつもりで公園に行っていたのですが、この公園ではカメラを持った常連の人たちが撮影をしていて、いつの間にか顔見知りになり、仲間になりました。そのうち、散歩より、立ち止まってカメラを構える時間の方が長くなりました。夕方になると、夕日を撮りに天草西海岸に向かいます。夕日スポットはたくさんあるので、今日はどこに行こうかと考えるのが楽しいです。河浦の崎津集落のマリア像のところには、遠方より来られるカメラマンもいて、話しかけたり、かけられたり。ここでも楽しい交流ができています。


撮影　山下千栄子さん

退教協の先輩の先生方からもいろいろなお誘いを頂き、卓球、陶芸、山登りと世界を広げています。

在職していた時とはちがった人々とのつながりができて、それをおもしろく感じている今日この頃です。

何度も集まり手作りで
――友好の会　天草大会を終えて――

天草地区事務局長　鬼塚　昭美

まだ肌寒い二月二十五日、二十六日、今年度の熊退教協友好の会が天草松島で開催されました。

コロナ禍が少し治まったとは言え、以前のような活動もなかなかできていなかった中で、前回の菊池大会が終わった直後から、地元天草では、来年はどうなるのだろうか、本当に開催できるのだろうかと、役員初め皆不安にかられていました。

しかし、せっかく企画するのなら、各地区から集まる会員に向け、天草らしい、手作り感のある楽しい交流の場にしていこうと少しずつ準備に取りかかりました。

幸い今年度天草では年六回の様々な例会を計画し、会員が集まる機会を多く設けたので友好の会に向けて皆でアイディアを出したり歌の練習ができたのは良かったと思います。

天草の会員のみなさんによる合唱「よかとこ天草」「天草小唄」「天草の雨は」「戦争を知らない子供たち」

天草はご存じのように自然豊かで人情も厚く、歴史ロマンにあふれたところです。県内の教職員だった方も、一度は天草で勤務された方も少なからずいらっしゃるでしょう。そんな天草を今回も楽しんでいただけるよう、天草らしさを盛り込んだ構成を考えました。

まず徳留さんによる天草の希少野生植物の講演。そして旅情豊かで、もの悲しさを秘めた歌の紹介を天草退教協で行ないました。

また夜の交流会では、おいしい料理と、あっと驚く出し物の披露、パープルリリーズさんによるステキな歌声が華やかさを添え、最後は会場の皆さんも一緒にハイヤ節を踊って、楽しい時間を過ごすことができました。

会員同士もなかなか会うことができなかった四年間。最近はやっと、「お久し振り、元気だったね？」と声を掛け合う機会も増えてきました。退教協の良さは、このお互いの日常を気遣い、元気をもらいあうところにあると思います。この天草大会が、そんな交流と親睦の場となったのであれば幸いです。

最後に今回いろいろとご協力いただいた関係者の皆様、熊退協の多くの会員の皆様に感謝申し上げたいと思います。

最後は一つの輪になって

友好の会「人吉球磨大会」へのご案内

人吉球磨地区会長　唐津　三敏

今年度は、人吉球磨での開催になります。期日・会場をどうするか、議論を始めた状態で、詳細については後日お知らせします。

二〇二〇年の豪雨災害からの復興は道半ばです。街中もそうですが、仮設住宅での生活を余儀なくされている会員もいます。

そんな中ですが、準備を進めていきます。県下の仲間の皆さん、お誘いあわせの上どうぞ人吉球磨へおいでください。

人吉球磨退教協あげて皆さんを歓迎します。

自分の思いを仲間に聞いてもらおう
～原稿募集のお知らせ～

今年も多難な幕開けとなりましたね。災害あり、事件あり、そして政治の腐敗あり。こんな時だからこそ、皆さん言いたいことがいっぱいありましょう。それを書いて投稿しませんか。エッセイでも川柳でも…その他好きに書いてください。暮らしと政治を結ぶ話題を歓迎します。もちろん、生きがいとなっている趣味のこと、その作品も待っています。

編集委員　小山　禎子